

明治二十年代から三十年代にわたる日本の歴史——それはまた熊本の歴史とも切りはなせない——から、日清戦争（二十七、八年戦役）と日露戦争（三十七、八年戦役）を逸することはできない。この二つの戦争が、東洋の一島国日本を、世界の舞台へ押し出した跳躍台の役目を果たしたことは否めないからである。

同時にわが熊本の第六師団は、この両戦役によつて精銳無比の名声を博し、後年「日本一の六師団」という定評を生むが拡大するにつれて、この郷土師団の勇名も逐次エスカレートした形である。こうした実績から、明治・大正・昭和にかけて、熊本には、軍都といふ異名が冠せられた。かつて、学都の名があつたようである。学都の名は五高華やかなりし時代まで、福岡に九大が生まれるとその影はうすれたが、軍都の名は大東亜戦争とともに、兵隊さんは熊本の象徴だったわけである。これはよかれあしかれ熊本にとつて歴然たる事実であり、熊本の

百年史から抹殺することはできない。

わが国の女性解放史に重要な役割を果

している一人は、本県益城町出身の矢島楫子で、彼女は明治十九年東京婦人矯風会（後日本キリスト教婦人矯風会）を創立して、婦人の地位向上と廢娼その他の社会事業に挺身し、九十三の高齢で歿するまで意欲的な活動を続けたことで知ら

れる。

無敵師団・女性解放？

くまもとの明治百年（最終回）

山 口 白 阳

（郷土雑誌“呼ぶ”主宰）

足場をつくった。昭和期に入つて満洲事変、支那事変、大東亜戦争と、スケール

が拡大するにつれて、この郷土師団の勇名も逐次エスカレートした形である。こうした実績から、明治・大正・昭和にかけて、熊本には、軍都といふ異名が冠せられた。かつて、学都の名があつたようである。学都の名は五高華やかなりし時代まで、福岡に九大が生まれるとその影はうすれたが、軍都の名は大東亜戦争とともに、兵隊さんは熊本の象徴だったわけである。これはよかれあしかれ熊本にとつて歴然たる事実であり、熊本の

ところが、もう一つ、明治三十三年熊本市の一本木遊廓で起つた娼妓の自由廃業（略して自廃）運動が、女性解放史上で今日に至つたのである。

矢島楫子以上に有名になっているのは皮肉な現象である。しかし、このいわゆる“東雲のストライキ”なるものは、事実とかなり違つたものようである。

この東雲の娼妓のストライキが誇大に宣伝されたのは“ストライキぶし”とい

左・有明海の沖で、フェリーが離合する時、船客たちは思わず互いに手を振り合う

左・船から直接橋を渡つて上陸する観光バスやマイカーの列

左・いよいよ港に接岸。船のへさきが開き、トラックやバスが吐き出されるしくみになつてゐる。

★くまもとカメラスケッチ

港（その3）長洲港

金魚の町で有名な、長洲町の突端にあるこの静かな漁港は、昭和33年有明フェリー（有明海自動車航送船組合）が就航してにわかに活気づいてきた。有明フェリーは熊本県と長崎県の共同事業で有明海の最短距離である長崎県の多比良港と熊本県の長洲港との間を自動車航送船を運航するものだが、産業路線としての重要性ははもちろん、九州国際観光S字ルートの要所としての意義もきわめて高い。現在、クリーム色の三隻の有明丸が青い潮路を行ききしている。



上・有明フェリー長洲事務所の全景



上・観光客の利用もぐっとふえてきた。



左・有明海の沖で、フェリーが離合する時、船客たちは思わず互いに手を振り合う



切りはなせない——から、日清戦争（二十七、八年戦役）と日露戦争（三十七、八年戦役）を逸することはできない。この二つの戦争が、東洋の一島国日本を、世界の舞台へ押し出した跳躍台の役目を果たしたことは否めないからである。

同時にわが熊本の第六師団は、この両戦役によつて精銳無比の名声を博し、後年「日本一の六師団」という定評を生むが拡大するにつれて、この郷土師団の勇名も逐次エスカレートした形である。こうした実績から、明治・大正・昭和にかけて、熊本には、軍都といふ異名が冠せられた。かつて、学都の名があつたようである。学都の名は五高華やかなりし時代まで、福岡に九大が生まれるとその影はうすれたが、軍都の名は大東亜戦争とともに、兵隊さんは熊本の象徴だったわけである。これはよかれあしかれ熊本にとつて歴然たる事実であり、熊本の

われる流行歌が原発になつてゐる。唄の文句はいろいろあるが、中でも

「祇園山から一本木見れば倒るる何と

茂七）東雲のストライキさりとは辛い

ね、てなことおっしゃいましたかね

という替唄によつて、当時數十名の娼婦

が東雲楼から集團脱走し、祇園山（花岡

山）に立てこもつて氣勢をあげた、とい

が東雲楼から集團脱走し、祇園山（花岡

山）に立てこもつて氣勢をあげた、とい

るまで意欲的な活動を続けたことで知ら

れる。

）自廃者が散發的に現れたが、十二月末には全く終息、娼妓たちはほとんど元の

翰におさまつたことがわかつた。

東雲楼は当時一本木の代表的妓樓で、その經營者中島茂七は関西に名を知られた相場師でもあつたので、この自廃さわぎにも楼主側の先鋒と目せられたのは無理もない。

しかし、当時の新聞が細大もらさず書いている関係記事によつても、東雲楼の自廃者は他の妓樓なみに二三人に過ぎず、ストライキと称し、集團脱走とさわぐような事実は皆目見当らない。要するにこのいわゆる“女性解放運動”は唄の文句が逆にデッチ上げた伝説と判断できるのである。

■編集室から

「くまもとの明治百年」は本稿をもつて、最終回としました。前回の特別号「熊本の百年」写真集とあわせてご活用いただければと思います。なお、「熊本の百年」の略年表の中で明治二十七年の項が活字も書いてあります。明治二十六年の中の「八八・一・清國に宣戰布告」以降は、明治二十七年の事項として行かえになりますので、そのようにご訂正ください。